

Z会進学教室 葛西通信 12月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室の先生の声をお伝えします。

「授業準備と答案添削の日々から——「ら抜き言葉」雑感」

国語科 荒井敏弘先生

いつものように、いまは真夜中です。

3K や 6K のみなさんが一生懸命に書きあげた答案を前に、それにふさわしい真剣さで、誠実に対応しなければなりません。口はばったい言いかたになりますけど、それが職業倫理というもの。職業小説家になる前に東大教授であった夏目漱石も、『道草』という自伝的な小説のなかで、目の前に積み重ねられた学生の答案を前に「何時まで経ったって片付きゃしない」と、つい愚痴をこぼしているくらいです。漱石ほどの見識をもってしてもそうであるなら、私の仕事がなかなか進まないのも仕方のないことなのかもしれません。しかし、一人一人の答案の前で立ちどまって、調べたり考えたりすることをやめてしまっただけではならないとも思うのです。それが「何時まで経ったって片付きゃしない」としても。



ときおり、生徒さんの答案のなかに「ら抜き言葉」が見つかります。数年前、文化庁の世論調査で、この「ら抜き言葉」が国民の多数派になったと新聞やニュースに報じられて以来、これまでのように単なる「間違い」として扱っていいのかわからない、ためらう気持ちが出てきました。というのも、言葉とは、それを使う人々が多数にのぼるのなら、たとえそれが誤用であっても「正しさ」を帯びるものだからです。日本語ばかりではなく、世界の言語でも、そういうことはこれまでたびたび観察されています。

そういう経緯で、今回は、覚悟を決めて調べてみることにしました。教壇では、こうした楽屋裏とも言うべき調査結果をすべて話す機会はないものなのですが、せつかく与えられた機会でもありますから、「葛西通信」の読者のみなさんとシェアしてみたいと思います。

「ら抜き言葉」とは、助動詞「られる」の「ら」を抜いた表現です。通常は、「読む」「書く」といった五段活用動詞に続く助動詞「れる」を、「見る」「出る」「来る」などの一段活用や変格活用の動詞にも続けてしまった「間違い」とされています。いっぽう、たまに容認派が、「見れる」といった「ら抜き言葉」は

<可能>の意味しか持たないのだから、それを用いたほうが、お互いに意思を理解することがより確実になるのだなどとも言ったりします。私は後者の「容認派」に肩入れをしたい気もするのですが、ところで、いったい、どうして「ら抜き言葉」は<可能>の意味にだけ用いられるようになったのでしょうか？　そういうところまで確かめておかななくては、議論は感情論や水かけ論になってしまうでしょうし、私も自信をもって大事な答案に赤を入れることはできません。

助動詞「れる／られる」には、<自発> <受身> <可能> <尊敬>という4つの用法があります。「ら抜き言葉」が誕生して普及した背景には、ひとまず敬語表現、とりわけ尊敬表現の変化があります。中村明『日本語のコツ』（中公新書）によると、「相手との相対的な位置関係を反映する謙譲語は〔中略〕出にくい」ために、最近の日本人は「尊敬語を多用する傾向がある」とのことです。さらに、小松英雄『日本語はなぜ変化するか』（笠間書院）の報告では、「お読みになる」といった、尊敬語の標準的な形式である「お～になる」という表現が、使う際に制限が多いことから（「お寝になる」とか「お追いなさる」とかと普通は言いません）、最近、「先生がご本を読まれる。」などと、助動詞「れる／られる」の<尊敬>用法を使った尊敬表現が広がってきているらしいのです。こういう状況になったとき、そこに何が起こるのでしょうか？　助動詞「れる／られる」の4つもある用法の内部で、<可能>用法と<尊敬>用法とのあいだに<紛らわしさ>が生じてしまうのです。

そもそも、助動詞「れる／られる」の4つの用法のあいだには、頻度、つまり、現われやすさの点で不均衡があります。もっとも古い用法である<自発>は会話などにはほとんど現われることがありません。これまでは、<尊敬>用法も、他の「お～になる」という尊敬表現や、「おっしゃる」などの尊敬語が代わりをしていたために、「れる／られる」で頻繁に出現する用法は、<受身>と<可能>くらいだったのです。ここに、最近になって<尊敬>用法がなだれをうって入りこんできたのが、助動詞「れる／られる」の現状です。そうすると、たとえば「先生は来られますか。」といった表現は、<受身>ではないことははっきりしますが、<先生が来ることができる>という意味（＝<可能>）なのか、あるいは、<先生がいらっしゃる>という意味（＝<尊敬>）なのか、瞬時に判断しにくいという事態が起こるようになってきてしまったというわけです。

この助動詞内部の用法の間に、上記のような<紛らわしさ>が起こったとしても、五段活用動詞に関しては、特別に困ることは起こりません。なぜなら、「読む」という五段動詞には、「読める」という19世紀頃に成立した<可能動詞>が対の形で存在しているからです。「先生はご本が読める。」と言えば、確実に<先生は本を深く読むことができる>という<可能>の意味が伝わりますし、「先生がご本を読まれる。」と発言すれば、<先生がご本をお読みになる>という<尊敬>の意味で伝わります。五段活用動詞が、このように歴史に恵まれてきたことに比べると、他の一段活用動詞や変格活用動詞は<可能動詞>にあたる語を持ってきませんでした。五段活用以外の<活用の種類>を持った動詞にも<可能動詞>を作りだすことができるならば、敬語表現の変化によってもたらされた助動詞「れる／られる」の<可能>用法と<尊敬>用法との<紛らわしさ>が解消され、言語伝達の効率性が向上することにつながります。そして、「ら抜き言葉」こそが、五段活用動詞以外の動詞たちが見出した、自分たちの<可能動詞>であると考えられないでしょうか？

<可能動詞>は、「読む」という五段動詞に対して、「読める」という形で存在しています。用いるときに変化する部分である<活用語尾>に注目してみると、「読 m-eru」というように「子音 m+e+る」という配置音になっています。「書く」という五段動詞の<可能動詞>も「書ける」ですから、「書 k-eru」と分析でき、やはり<活用語尾>は「子音 k+e+る」という音の配置が来ることとなります。他方、「ら抜き言葉」として<間違い>とされている表現は、たとえば、「見れる」「出れる」「来れる」といったものでした。これらの語尾の配置音を考えてみると、すべて「子音 r+e+る」となっていて、<可能動詞>との類似が認められます。おそらく、<可能動詞>から、音の配置の類似によって、助動詞「れる／られる」の正統な使いかたを誤用して作りだされたのが、一段活用動詞や変格活用動詞の、これまで手にすることのできなかつた自分たち専用の<可能動詞>なのではないでしょうか？ 小松英雄は、この事態の積極的な側面を認めていて、新しく<レル型可能動詞>という名称を与えて、そのやむにやまれぬ出現のプロセスを評価しています。「ら抜き言葉」を<レル型可能動詞>として認めると、助動詞「れる／られる」は、つぎのように整理することが可能になります。

活用の種類	<自発>用法	<受身>用法	<可能>用法	<尊敬>用法
五段活用	れる	れる	可能動詞	れる
五段活用以外	られる	られる	ら抜き言葉 = レル型可能動詞	られる

(小松、前掲書、234 ページより改変)

敬語表現の地殻変動や、<可能動詞>から<活用語尾>の音配置を誤って類推することにより、<ら抜き言葉 = レル型可能動詞>が、遙かな隘路を通りぬけて出現したことはこれまでに説明したとおりです。また、それは、助動詞「れる／られる」にもたらされた、一種の<紛らわしさ>、混乱を解消するために用いられた<日本語の、あるいは、日本語話者の知恵>と言ってもいいのかもしれません。

けれども、小松英雄は、「どれほど合理的な変化であっても、新しい言いかたは、当分の間、低く位置づけられ、それを使う人も低く評価されることを知っておくことは、社会生活における円滑な伝達にとって大切なことである」と慎重に言いそえておくことも忘れてはいません。すなわち「相手に抵抗を感じさせないのが正しいことばづかいであり、とりもなおさず正しい日本語である。相手しだいで、いくとおりもの正しい日本語があり、その場に応じてそれらを適切に使い分けるのが言語運用の能力である」と。

3K や 6K のみなさんが受験する中学、高校に、それなりの数でいるかもしれない言語の<保守主義者>に合わせた表現をするのがいちばんであって、無理に「ら抜き言葉」、つまり、「相手が抵抗を感じる」言葉を押しとおしてしまつては、ひいては、みなさん自身の「言語運用の能力」を鈍らせてしまいかねません。

だから、私は、「ら抜き言葉」を無意識で用い、また、そういうふう用いることがなかつた不可避になっているかもしれないみなさんの表現のなかに「ら抜き言葉」を見つけたとしたら、自信をもって、「まだこの表現を使うのには時期尚早なのです。『ら抜き言葉』を<言葉の乱れ>と考える人もいますから、この表現は避けて、『見られる』などと『ら』を落とさないように注意しましょう」と、しばらくのあいだは、コメントを入れつづけるつもりです。

月	日	曜	受付時間	授業・テスト・模試など※Vもぎは3年生が任意で受ける模試です				保護者会・研究会など			
12	1	金	14 ~ 22								
	2	土	9 ~ 22		中3 模試 自校作成テスト						
	3	日	9 ~ 20	12月度②			私立Wもぎ	Wもぎ(東京)	Vもぎ(千葉)	10:00~12:00 千葉県立高校入試研究会	
	4	月	14 ~ 22								
	5	火	14 ~ 22								
	6	水	14 ~ 22								
	7	木		休室							
	8	金	14 ~ 22								
	9	土	10 ~ 22							11:00~12:00 冬期・本科説明会	
	10	日	9 ~ 20	12月度③			第6回 駿台模試	Wもぎ(東京)	Vもぎ(千葉)		
	11	月	14 ~ 22								
	12	火	14 ~ 22								
	13	水	14 ~ 22								
	14	木		休室							
	15	金	14 ~ 22								
	16	土	10 ~ 22								
	17	日	9 ~ 20		3K 12月度 実力テスト	2V 12月度 実力テスト	2K 12月度 実力テスト	1V 12月度 実力テスト			
	18	月	14 ~ 22	休講日							
	19	火	14 ~ 22		3K 理社 単科ゼミ①	中2英数 単科ゼミ①					
	20	水	14 ~ 22		3K 理社 単科ゼミ②	中2英数 単科ゼミ②					
	21	木	14 ~ 22		3K 理社 単科ゼミ③	中2英数 単科ゼミ③					
	22	金	14 ~ 22	休講日							
	23	土	9 ~ 20		3K 英数国 単科ゼミ①	中2 作文 単科ゼミ①	中2理社 講習①	中1理社 講習①			
	24	日	9 ~ 20		3K 英数国 単科ゼミ②	中2 作文 単科ゼミ②	中2理社 講習②	中1理社 講習②			
	25	月	10 ~ 20	休講日							
	26	火	9 ~ 20		3K 英数国 単科ゼミ③	中2 作文 単科ゼミ③	中2理社 講習③	中1理社 講習③			
	27	水	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習①						
	28	木	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習②	2V 英数国 講習①	2K 英数国 講習①	1V 英数国 講習①			
	29	金	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習③	2V 英数国 講習②	2K 英数国 講習②	1V 英数国 講習②			
	30	土	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習④	2V 英数国 講習③	2K 英数国 講習③	1V 英数国 講習③			
	31	日	9 ~ 19		3K 英数国理社 講習⑤						
1	1	月		休室							
	2	火		休室							
	3	水		休室							
	4	木	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習⑥	2V 英数国 講習④	2K 英数国 講習④	1V 英数国 講習④			
	5	金	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習⑦	2V 英数国 講習⑤	2K 英数国 講習⑤	1V 英数国 講習⑤			
	6	土	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習⑧	2V 英数国 講習⑥	2K 英数国 講習⑥	1V 英数国 講習⑥			
	7	日	9 ~ 20		3K 確認テスト	2V 確認テスト	2K 確認テスト	1V 確認テスト			
	8	月	14 ~ 22	休講日							
	9	火	14 ~ 22	休講日							
	10	水	14 ~ 22		3K 単科ゼミ 学校別入試対策講座						
	11	木	14 ~ 22		3K 単科ゼミ 学校別入試対策講座						
	12	金	14 ~ 22	3年生のみ 1月度①		1・2年生は 1月14日(日)の週から授業開始!					

〒134-0084 江戸川区東葛西 6-2-3 第三須三ビル 6階 TEL03-5878-0844

Z会の教室

受付時間 平日 14:00~22:00 日曜日 10:00~20:00 休室日 木曜日

『葛西通信』の記事(バックナンバー)はWebからもご覧いただけます。

Z会 葛西 検索